

問 ヤングケアラーに支援を

ヤングケアラーとは、家族の介護をしている18歳未満の子どものことです。家族の世話を子どもが担い、本来の勉強や、遊び、部活などができないでいる存在です。調査では高校生の25人に一人がその経験があるとのこと。白岡市として支援するべきではないか。

答 周知活動を通じて理解を深めていただく

周囲の人が気づける環境と悩みを声に出せる地域づくりが重要であるため、民生委員・児童委員や青少年育成推進員、教職員等への研修や周知活動等を通じて理解を深めていただくとともに、広報紙やホームページ、ツイッターを活用し周知していく。



石原富子 議員
(TSUNAGU)



大島 勉 議員
(創政会)

問 アンダーパス冠水時の水害対策は

元年10月におきた台風19号のあとも、たびたび冠水する東北自動車道のアンダーパスの現状の認識と取組について伺うとともに、想定外の災害の多い昨今の状況から抜本的な水害対策を講じることが必要と考えるが、市の安全確保に対する考えを伺う。

答 通行者の安全確保に努める

集中豪雨等に備え、電光掲示板や排水ポンプの点検、側溝の清掃など、施設の維持管理を行っている。冠水時にはバリケード等により通行を規制している。一方、排水先河川の十分な流水断面の確保が必要であることから、県に対し河川改修等の要望を行っている。

文教厚生常任委員会

障がい者施設の感染症対策について

5月18日(火) 福祉課

太陽の里では、事業継続計画を作成し、感染症対策を行っていたが、2年7月25日に集団感染が発生した。全員のPCR検査実施と職員の怠ることない感染症対策により2年8月18日に終息宣言できた。重度の利用者が多く職員間の意識や結束が非常時の運営を大きく左右するなかで、職員の生活や健康を考慮する施設長の姿勢がよく伝わり、大変参考になった。市としてサポートできる仕組みや医療従事者と同等にワクチン接種を望むとの声は大変響いた。施設長から、市の対応について「クラスター発生場所として、太陽の里という名称を入所している方のプライバシーを守るため、最後まで公表しなかった白岡市に感謝します。」との発言があった。

ありの実館・東ありの実館においても、利用方法に工夫を凝らしており、感染症を出さない、出たときは素早い対応ができると感じ

た。初めて実施した在宅ワークでは、家族の負担軽減も考えながら、利用者のために対応しており、新たな才能の発見など成果もあった。一方、一日おきの通所になるなど、生活リズムの変化に対応できず苦しんだ利用者もあり、これまでどおりの利用形態が必要とされている。引き続き、感染症対策を講じながらの受入れに努めていただきたい。

